



第62期 報告書

2008.3.1 ▶ 2009.2.28

株式会社 オンワードホールディングス

証券コード NO.8016



代表取締役会長
廣内 武



代表取締役社長
水野 健太郎

株主の皆様へ

株主の皆様におかれましては、ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

平素より格別のご支援をいただき、心から感謝を申し上げます。

平成21年2月28日をもちまして、第62期の事業年度を終了いたしました。ここに第62期報告書をお届けし、事業の概況等につきましてご報告申し上げます。

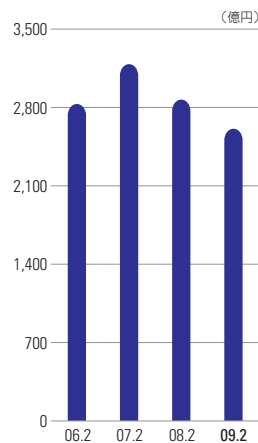
当社グループは、「人々の生活に潤いと彩りを与えるおしゃれの世界」を事業領域に定め、「ファッション」を生活文化として提案することによって新しい価値やライフスタイルを創造し、人々の豊かな生活づくりへ貢献することを経営理念としております。

また、当社グループは、当連結会計年度より「中期3ヵ年経営計画」をスタートし、その基本戦略は、ブランドを基軸とした経営による「ブランド価値の創造」をさらに推進するものであります。

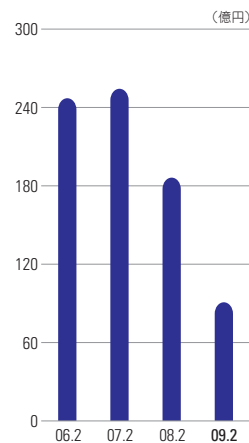
事業戦略といたしましては、国内事業の安定的な収益拡大と海外事業での積極的な事業拡大をはかり、グループの成長戦略と経営の効率化を進め、企業価値・株主価値の向上をめざしてまいります。

株主の皆様には、今後とも変わらぬご理解とご支援を心よりお願い申し上げます。

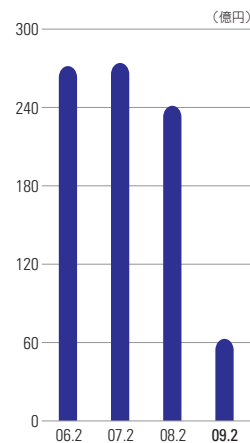
連結売上高



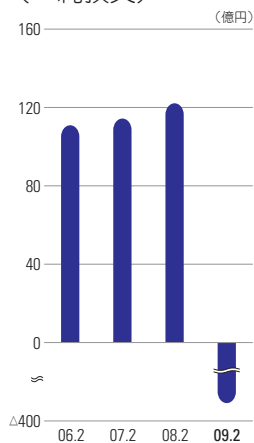
連結営業利益



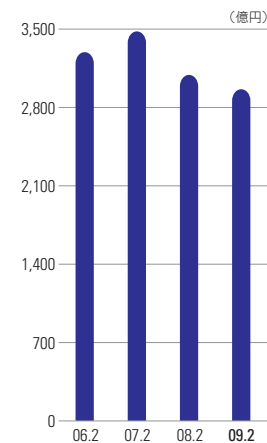
連結経常利益



連結当期純利益 (△純損失)



連結総資産



(百万円)

	2006.2	2007.2	2008.2	2009.2
連結売上高	283,110	318,690	287,032	261,005
連結営業利益	24,707	25,431	18,628	9,084
連結経常利益	27,167	27,407	24,128	6,285
連結当期純利益(△純損失)	11,091	11,438	12,213	△30,895
連結総資産	329,403	347,936	309,092	296,282
連結純資産	203,826	225,138	197,639	158,418
連結1株当たり当期純利益(△純損失)(円)	63.79	70.52	76.53	△197.21

当期の事業環境と業績全般について

当連結会計年度におけるわが国経済は、リーマン・ショックをきっかけとした金融危機が深刻化するなか、その影響が实体经济におよび、企業収益の急激な悪化を招きました。さらに、金融市場の信用収縮が進み資金調達環境は厳しさを増すとともに、設備投資の減速、雇用情勢の悪化などにより、景気の低迷局面を迎えました。

当アパレル業界におきましては、消費価値観の変化に加え、景気悪化を反映した生活防衛意識の高まりから、慎重な消費行動が鮮明となるなど、かつてない厳しい状況となりました。

このような経営環境のなか、当連結会計年度から当社グループは、新たな成長軌道の確立を目標とした「中期3ヵ年経営計画」をスタートいたしました。ブランドを基軸とした経営による「ブランド価値」を創造することで、国内



「自由区」



「23区」

での安定的な収益拡大と、海外での積極的な事業拡大による成長をめざし事業運営を進めてまいりました。

その成長戦略の一環として、ヨーロッパのラグジュアリーブランドを展開するジルサンダーグループと、国内でのペット関連市場のオンリーワン企業である株式会社クリエイティブヨーコの、国内外におけるM&Aを実施いたしました。今後、当社グループの収益拡大の柱となるよう、グループ企業間の取り組み強化を進めることでシナジー効果を発揮させ、企業価値の向上をめざしてまいります。

国内事業の概況につきましては、株式会社オンワード樫山において、経営資源の集中化による基幹ブランド強化と効率運営に努めてまいりました。しかしながら、9月以降の

急激な消費マインドの冷え込みから、主流通である百貨店衣料品市場が低迷し、減収減益となりました。

海外事業の概況につきましては、事業の中核である欧州地区において、下期からのラグジュアリーマーケットの急激な縮小や為替変動の要因もあり、厳しい業績となりました。

また、株式市場の低迷による投資有価証券評価損226億45百万円および、のれんの減損損失115億92百万円を特別損失として計上いたしました。

第62期(2009年2月期)連結業績実績

売上高	2,610億 5百万円 (前期比 9.1%減)
営業利益	90億 84百万円 (前期比 51.2%減)
経常利益	62億 85百万円 (前期比 74.0%減)
当期純損失	308億 95百万円 (前期は122億13百万円の当期純利益)

事業セグメント別の概況

■アパレル関連事業

国内事業につきましては、株式会社オンワード樫山において、百貨店事業では、「23区」「自由区」をはじめ基幹ブランドへの経営資源の集中化で、市況が低迷するなか一定の成果を得ましたが、事業全体としては厳しい業績となりました。新流通事業では、既存店舗の効率の見直しを行い、基幹ブランドを中心に収益性の改善がはかれたことにより、今後の収益拡大に向けた基盤ができました。



「J. プレス」ニューヨーク店

海外事業につきましては、欧州地区において減収減益となりましたが、ジボ・コーグループは、海外事業の成長エンジンであり、今後の事業拡大に向けた必要な投資を継続的に実施いたしました。また、ジョゼフグループは、上期は順調に推移したものの、9月以降のマーケットの低迷により収益が低下いたしました。新成長戦略に向けた基盤が整いました。アジア地区においては、下期の業績の伸び率は鈍化したものの、概ね堅調に推移いたしました。また北米地区においては、「J.プレス」の小売事業とネット販売に事業運営を集中させることで改善がはかれました。

■アパレル関連事業

売上高	2,454億 32百万円 (前期比 8.9%減)
営業利益	89億 54百万円 (前期比 55.6%減)

■その他の事業

サービス関連事業につきましては、ファッション物流事業のアクロストラנסポート株式会社は、減収となりましたものの、経営の効率化で計画通りの増益を達成いたしました。商業施設の設計・施工事業の株式会社オンワードクリエイティブセンターは、商業施設の設備投資抑制の影響を受けて受託件数が減少いたしました。

リゾート関連事業につきましては、ゴルフ事業は健闘したものの、ホテル事業については航空運賃の高騰と世界的な経済不況によるゲラム入島者数減少の影響を受けて、前年を下回る業績となりました。

■その他の事業

売上高	232億 60百万円 (前期比 15.4%減)
営業損失	1億 19百万円 (前期は2億77百万円の営業利益)



「オンワード
マンギラオゴルフクラブ」



「オンワード
タロフォォゴルフクラブ」

次期の見通し

今後の見通しにつきましては、世界的な景気の低迷により、経営環境は厳しい状況が予想されます。また、個人消費につきましても、依然として低調に推移するものと思われれます。

このような経営環境のなか、当社グループは、「中期3ヵ年経営計画」の経営の方向性を変えることなく、積極的に事業運営を推進してまいります。

国内におけるアパレル業界におきましては、少子高齢化、価値観の多様化など消費構造の変化や、景気後退による生活防衛意識がさらに高まり、市況低迷が続くものと思われれます。

このような状況の下、株式会社オンワード樫山は、「モード」「クオリティ」「ヴァリュープライス」をキーワードに、新鮮で魅力溢れる商品開発と、ショップ環境の向上により、単店舗売上拡大を積極的に推進してまいります。「23区」「自由区」が市場で支持された実績を活かすとともに、他の基幹ブランドにつきましても、さらなる拡大と進化をめざしてまいります。新ブランド開発では、今秋、消費者の変化する価値観に応える新たなコンセプトで、レディースブランドを開発し、百貨店流通で展開いたします。また、国際戦略の推進から生まれた、米国発の新しい世界観が注目されている「オープニングセレモニー」の新事業を、都心大型路面店で展開いたします。加えて、今後の事業拡大に向けて、新流通に対しても、新ブランド開発を進めてまいります。

その他の国内事業会社におきましては、収益性の向上を

基本方針とし、特に株式会社クリエイティブヨーコにつきましては、成長するペット市場に対して、さらなる業容の拡大をめざし積極的な施策を進めてまいります。

海外事業におきましては、世界景気の後退により厳しい状況が予測されますが、今後の成長戦略の柱となる欧州地区を中心に積極的に事業運営を推進してまいります。ジョゼフグループでは、昨年就任したCEOによる新成長戦略が順調に推移し、新たな商品企画や主力路面店の大型改装による成果が現れてきました。今後さらに、新グローバル戦略を積極的に進めることが大きな成長につながると確信しております。ジボ・コーグループとジルサンダーグループは、グローバルな視点で事業を進め、ジボ・コーグループの企画生産プラットフォームの活用などにより、両社の取り組みを深めてまいります。そのことにより、収益性の向



「ジョゼフ」ウェストフィールド店



「ジルサンダー」ミラノ店

上と商品力強化がはかれ、高いシナジー効果が実現されます。また、アジア地区は、成長性の高い中国を主体に、市場の変化に迅速に対応した運営により、拡大路線を継続してまいります。

第63期(2010年2月期)連結業績予想

売上高	2,526億円 (前期比 3.2%減)
営業利益	80億円 (前期比 11.9%減)
経常利益	100億円 (前期比 59.1%増)
当期純利益	36億円 (前期は308億95百万円の当期純損失)

米国発「OPENING CEREMONY」 新事業として都心大型路面店で今秋スタート

当社は、オープニングセレモニー社が運営する「OPENING CEREMONY」の日本における商標権を取得いたしました。オープニングセレモニー社は2001年にニューヨークに設立されました。翌年、N.Y.ソーホー地区にオープンした「OPENING CEREMONY」は、従来のセレクトショップと一線を画した斬新なアイデアを取り入れた



「OPENING CEREMONY」ニューヨーク店

PHOTO : Senken Shimbun

コンセプトショップで、人気ショップとして消費者から多くの支持を得ております。

日本における事業展開は、株式会社オンワード樫山が実施し、オープニングセレモニー社の高いディレクション能力と、株式会社オンワード樫山の店舗運営ノウハウや商品供給システムを最大限に活用した「OPENING CEREMONY」日本1号店を今秋東京都内に計画しております。

同店では、米国2号店となるロサンゼルスのお店で採用しているショップコンセプト“ミニメガ・モール”を導入し、約2,000平方メートルの売場面積を予定しております。“ミニメガ・モール”は、ショップインショップの考えを進化させたもので、デザイナーのアイデンティティを表現するのに適した展開方法を取っております。

商品構成はレディス・メンズ共にオリジナルブランド商品を中心に、バイイング商品、様々なブランドとのコラボレーション商品、アクセサリ、ホームウェア、音楽、書籍などの幅広いカテゴリーを展開してまいります。また、米国で人気のカフェも誘致し、同スペース内で展開してまいります。

20代女性に向けたライフスタイル型新ブランド 「f ø r s t e」今秋デビュー!

株式会社オンワード樫山は、20歳代の女性に向けたライフスタイル型ブランド「フェアステ」を、今秋から全国の都市型百貨店で展開してまいります。

このブランドは、流行を追いかけるのではなく、時代の感性を程よく取り入れ、良識とクラス感に裏打ちされ、さりげなく個性を表現しており、「さりげなく、おしゃれで、センスがいい」をキーワードに、プレッピーテイストをベースに上品でキュートな洗練されたスタイルを提案いたします。

コンセプトは「プレッピー・シック (Preppy-Chic)」で、自分のスタイルをしっかりと持ち、仕事もプライベートも



「フェアステ」



「フェアステ」

大切にする20歳代の女性をターゲットにしております。

ブランド名の「フェアステ」は、デンマーク語で“1番の”という意味に由来します。「安心感」「信頼感」を原点に開発した商品により、お客様それぞれの個性をさりげなく引き出し、そして何よりもお客様自身に、幸せな気分を感じていただけるようなブランドでありたいという願いを込めてネーミングいたしました。

CSRへの取り組み

当社グループは生活文化企業として人々の豊かな生活づくりに貢献するとともに、「地球環境の保全」を経営の重要な課題として捉え、人と環境に優しい企業をめざしております。

これまでも水洗い可能なエコロジー商品などの開発、環境マネジメントシステムISO14001の認証取得に努めるなど、環境保全に積極的に取り組んでおります。

その活動内容の一部をご紹介します。

環境プロジェクト「オンワード・グリーンプロジェクト」を推進

株式会社オンワード樫山は、地球環境に優しいウール製品の良さをアピールする環境プロジェクトである「オンワード・グリーンプロジェクト」を2008年秋冬に実施いたしました。本プロジェクトは、ウール本来の優れた素材特性だけではなく土に還すことが可能な繊維であることに着目し、ウールの良さを理解していただくために、紳士服の「五大陸」「J.プレス」、婦人服の「iCB」、子供服の「組曲」「J.プレス」の各ブランドで、2008年秋冬シーズンに初めて実施いたしました。2009年2月に売上の一部をオーストラリアの土地や土壌の管理を包括的に行う環境保護団体「ALMCS（オーストラリアン・ランドケア・マネジメント・サーティフィケーション・システム）」に寄付いたしました。

「ALMCS」の土壌の環境保護と改善を目的としたプログラムに役立てていただいております。



オンワード・グリーンプロジェクト対象ブランド「iCB」

「土佐山オンワード“虹の森”」の森林保全活動を展開

当社は、高知県が推進する「環境先進企業との協働の森づくり事業」について、高知県、高知市および高知市森林組合とパートナーズ協定を11月に締結し、高知県高知市の森林約45ha「土佐山オンワード“虹の森”」の保全活動を行っております。

本来、森林は適性に整備を行うことでCO₂の吸収や水源涵養などの公益的機能が維持されますが、近年は安価な外材の大量輸入や後継者不足などの加速により十分な管理・保全がなされていないのが現状です。この事業は、日本一の森林率(84%)である高知県により「森林の再生」と「交流の促進」をめざして2005年度に創設されました。同協定の締結は、アパレル業界としては初めての協定事例となります。



当社が保全活動する森林
「土佐山オンワード“虹の森”」



今後は地域の方々のご協力のもと、当社グループ社員による間伐をはじめとした森林再生活動を行うとともに、この森を通じて地域住民との交流を深めてまいります。

早稲田大学との産学連携イベントとして大隈講堂でトーク&ファッションショーを開催

当社と早稲田大学は、大学生に向けた産学連携イベントを、早稲田大学大隈講堂で11月に行いました。本イベント



トークライブ「グローバル化への対応」

は若者に普段の授業では学べない産業界の生の声に触れる機会を与え、業界の理解を深めてもらうことを目的として行われました。

当日は、当社の廣内武会長と白井克彦早稲田大学総長が「グローバル化への対応」をテーマにトークショーを行い、企業と大学において、共にグローバル化が重要課題であることを訴えました。その後オンワードグローバル戦略ブランド「JOSEPH」「iCB」のファッションショーを行い、メンズ&レディス50コーディネートを紹介いたしました。

連結貸借対照表

(百万円)

	前期 2008年2月29日現在	当期 2009年2月28日現在
資産の部		
流動資産	112,519	98,945
現金及び預金	36,849	23,415
受取手形及び売掛金	28,323	26,420
たな卸資産	33,233	33,758
繰延税金資産	3,953	3,913
その他の流動資産	10,328	11,600
貸倒引当金	△167	△162
固定資産	196,572	197,336
有形固定資産	95,008	90,174
建物及び構築物	32,254	29,113
土地	53,161	53,041
その他の有形固定資産	9,592	8,019
無形固定資産	25,943	50,374
のれん	23,084	47,475
その他の無形固定資産	2,859	2,899
投資その他の資産	75,620	56,788
投資有価証券	50,773	33,824
長期貸付金	4,732	4,507
長期前払費用	1,861	1,270
繰延税金資産	6,435	5,748
その他の投資	12,985	14,159
貸倒引当金	△1,167	△2,723
資産合計	309,092	296,282

(百万円)

	前期 2008年2月29日現在	当期 2009年2月28日現在
負債の部		
流動負債	93,320	92,368
支払手形及び買掛金	42,074	39,620
短期借入金	25,677	28,252
1年内返済予定長期借入金	—	3,395
未払費用	8,478	8,740
未払法人税等	7,237	2,261
未払消費税等	2,359	2,466
賞与引当金	2,427	2,187
役員賞与引当金	289	133
返品調整引当金	711	637
その他の流動負債	4,065	4,672
固定負債	18,132	45,496
長期借入金	—	26,746
再評価に係る繰延税金負債	5,949	5,949
退職給付引当金	3,487	2,933
役員退職金引当金	151	56
債務保証損失引当金	—	30
その他の固定負債	8,544	9,781
負債合計	111,453	137,864
純資産の部		
株主資本	213,625	178,023
資本金	30,079	30,079
資本剰余金	50,044	50,043
利益剰余金	157,015	121,412
自己株式	△23,514	△23,512
評価・換算差額等	△18,768	△21,156
その他有価証券評価差額金	△5,887	△6,929
繰延ヘッジ損益	△17	△75
土地再評価差額金	△11,074	△11,074
為替換算調整勘定	△1,788	△3,076
新株予約権	135	293
少数株主持分	2,646	1,258
純資産合計	197,639	158,418
負債及び純資産合計	309,092	296,282

連結損益計算書

(百万円)

	前期	当期
	2007年3月 1日から 2008年2月29日まで	2008年3月 1日から 2009年2月28日まで
売上高	287,032	261,005
売上原価	156,842	142,676
売上総利益	130,190	118,329
販売費及び一般管理費	111,562	109,245
営業利益	18,628	9,084
営業外収益	7,048	4,419
営業外費用	1,547	7,217
経常利益	24,128	6,285
特別利益	7,422	924
特別損失	3,654	37,805
税金等調整前当期純利益または当期純損失(△)	27,896	△30,596
法人税、住民税及び事業税	9,779	4,639
法人税等調整額	5,185	△4,602
少数株主利益	717	262
当期純利益または当期純損失(△)	12,213	△30,895

連結株主資本等変動計算書(2008年3月1日から2009年2月28日まで)

(百万円)

	株主資本					評価・換算差額等					新株 予約権	少数株主 持分	純資産 合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本 合計	その他の有価証券 評価差額金	繰延ヘッジ 損益	土地再評価 差額金	為替換算 調整勘定	評価・換算 差額等合計			
2008年2月29日残高	30,079	50,044	157,015	△23,514	213,625	△5,887	△17	△11,074	△1,788	△18,768	135	2,646	197,639
連結会計年度中の変動額													
剰余金の配当			△4,699		△4,699								△4,699
当期純損失			△30,895		△30,895								△30,895
自己株式の取得				△28	△28								△28
自己株式の処分		△1	△8	31	21								21
株主資本以外の項目の 連結会計年度中の変動額(純額)						△1,042	△57		△1,287	△2,388	157	△1,388	△3,619
連結会計年度中の変動額合計	—	△1	△35,603	2	△35,601	△1,042	△57	—	△1,287	△2,388	157	△1,388	△39,221
2009年2月28日残高	30,079	50,043	121,412	△23,512	178,023	△6,929	△75	△11,074	△3,076	△21,156	293	1,258	158,418

会社の概要 (2009年2月28日現在)

社名	株式会社 オンワードホールディングス ONWARD HOLDINGS CO., LTD.
設立	昭和22年9月4日
資本金	300億79百万円
事業内容	純粋持株会社としてのアパレル、サービス、リゾート関連事業を営む傘下関係会社の経営管理およびそれに附帯する業務
従業員数	34名
所在地	東京都中央区日本橋3丁目10番5号
主要関係会社	株式会社オンワード樺山 オンワード商事株式会社 チャコット株式会社 株式会社クリエイティブヨーコ バスストップ株式会社 アクロストランスポート株式会社 株式会社オンワードクリエイティブセンター 株式会社ブックレット 株式会社オンワードライフデザインネットワーク 株式会社オーアンドケー ジョゼフLTD. シボ・コーS.P.A. シルサンダーイタリアS.P.A. フリードオブロンドンLTD. オンワードピーチリゾートガムINC. J. プレス INC. 恩瓦徳時尚貿易（中国）有限公司

取締役および監査役 (2009年5月28日現在)

代表取締役会長	廣内 武
代表取締役社長	水野健太郎
代表取締役副社長	馬場和哉
常務取締役	吉沢正明
常務取締役	田中 実
取締役	本庄八郎
取締役	中村嘉秀
常勤監査役	山本昭登
常勤監査役	松本秀雄
監査役	小川恵一
監査役	矢部丈太郎

- (注) 1. 取締役 本庄八郎、中村嘉秀の両氏は、会社法第2条第15号に定める社外取締役です。
2. 監査役 小川恵一、矢部丈太郎の両氏は、会社法第2条第16号に定める社外監査役です。

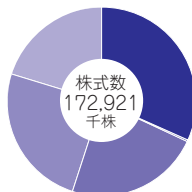
株式の状況(2009年2月28日現在)

発行可能株式総数	400,000,000株
発行済株式の総数	172,921,669株
株主数	10,317名

(注)発行済株式の総数には、自己株式16,267千株が含まれております。

所有者別株式分布状況

金融機関	55,078千株	31.9%
証券会社	372	0.2
その他の法人	39,820	23.0
外国法人等	42,669	24.7
個人・その他	34,982	20.2



(注)個人・その他には、自己株式が含まれております。

大株主(上位10社)

株主名	当社への出資状況	
	持株数	出資比率
財団法人樫山奨学財団	8,710千株	5.5%
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	7,995	5.1
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口4G)	6,886	4.3
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	6,550	4.1
日本生命保険相互会社	6,227	3.9
リーマンブラザーズインターナショナル(ヨーロッパ)	5,903	3.7
株式会社伊勢丹	5,001	3.1
第一生命保険相互会社	4,200	2.6
株式会社丸井グループ	3,417	2.1
株式会社三井住友銀行	2,931	1.8

(注) 1. 当社は自己株式16,267千株を保有しておりますが、上記の大株主から除いております。

2. 出資比率は、自己株式16,267千株を控除して計算しております。

株主メモ

事業年度	毎年3月1日から翌年2月末日まで
基準日	定時株主総会 2月末日 期末配当金 2月末日
定時株主総会	毎年5月中
株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社
特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081東京都江東区東砂七丁目10番11号 TEL 0120-232-711 (通話料無料)
上場証券取引所	東京・大阪・名古屋証券取引所 市場第1部
公告の方法	電子公告の方法により行います。ただし、電子公告によることができない事故その他やむを得ない事由が生じた場合は、日本経済新聞に掲載して行います。 公告掲載URL http://www.onward-hd.co.jp/

(ご注意)

- 株券電子化に伴い、株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問い合せください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問い合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取次ぎいたします。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。



当冊子についてのお問い合わせ先

株式会社 オンワードホールディングス

〒103-8239 東京都中央区日本橋3-10-5

TEL.03-3272-2312